

Vol. 55



さと
やすらぎの郷



旅行先での高松正江様ご夫妻





令和六年 新年の挨拶



新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は、やすらぎの郷の運営に格別のご支援、ご協力を賜り、**園長 荒木 ひとみ** 厚く御礼申し上げます。

さて、皆様、やすらぎの郷の敷地内からは、旧石器時代から鎌倉時代にかけての集落や墓地などが発掘されていたことをご存じですか。松ヶ上遺跡というそうです。当施設は旧石器時代から続く歴史ロマンあふれる施設です。ご興味のある方は、ぜひ施設見学にお越しください。緑に囲まれた当施設は、やすらぎの郷の名前のとおり、訪れた方々に癒しを感じて頂ける施設でございます。

当施設をご利用の皆様にも癒しを感じて頂けるよう、質の高い介護サービスを提供し、安心して安全な施設運営をするべく、これからも職員一同、頑張っまいります。

今後も皆様から信頼される施設であり続けるよう、努力する所存でございますので、引き続きご支援、ご協力の程、よろしく願いいたします。本年が皆様にとって輝かしい一年となりますよう、ご祈念申し上げます新年の挨拶といたします。



Respectively

それぞれの 物語

Story
家族インタビュー

Respectively Story

やすらぎの郷は人の想いを支えます



やすらぎの郷で看取りケアをさせていただいた高松正江様の長女様、三女様にお話を伺いました。

①正江様はどのようなお母さまでしたか？



とにかく器用で、日本舞踊の名取を持っていて、着物と裁縫も教えられて、なんでもできる社交的な人でした。私たちには躰が厳しくて、びしびし育てられた。泣き言を言ったら

「ひっきり根性だしなさい」という方言が口癖でした。また口だけじゃなく、することはきちんとしていて、家の中はいつも綺麗できちんとしているし、活動的で外に出てばかりいるのに料理はうまい。父のために50歳で車の免許を取ってか



らは、ありとあらゆるところを2人で旅行していました。父が生きている間はすごく幸せで、お互いに助け合っていましたよ。今となつては、きちっと育ててもらったなあって、ありがたかったな。亡くなつても、いろんなものを私たちに残してくれているなどというのがありますね。



②やすらぎの郷入所までの経緯

いつ発症したかはわからないけど、きっかけは父が亡くなり、妹の具合が悪くなって、いろんな負担や経済的な負担、心配ごとがきっかけで徐々に崩れだしたように思います。当時は認知症やアルツハイマーとかまったく知識になかったから、「いったいこの母に何が起きたの」みたいな入口でした。下の問題が発生した時にはもうだめだと。知り合いに当施設のことを教えてもらい、老健を経由してやすらぎの郷に81歳で入所をしました。

③やすらぎの郷での看取りを選んだ理由について伺いました



母を見るのを放棄した痛みがあつて、自分たちが放棄したことを、皆さんが丁寧に丁寧に介護してください、何かがあれば細やかに電話を下さつて。母にとってみればお家ですから、10年以上お世話になっていて、もうその他に考えられないですもの。これほど丁寧に細やかに介護してくださっている場所を最後までって考えるのが普通だろうと思つて。面会に行った時も、職員さんから、「いろいろお世話



の場面で、お母様がありがとうございますと云ってくださるんですよ」って聞いて。母は、分からないながらも、してくださつたことに対して「ありがとう」という言葉が自然に出たんですね。職員さんも「うれしいです」と云ってくださつてですね。やっぱりそういう積み重ねよね、ここしかない最後の看取りっていうかね。すごくありがたいなと思つました。

④やすらぎの郷での15年間を振り返つてみて

「やすらぎでした」ここに母がいるっていうことで「やすらぎ」だったし、母にとつてもやすらぎの場所だった。安心してお任せして何の心配もしてなかった。夏祭り、いろ



いろ催し物をしてくださつて、まこちゃんやつか、やすらぎの郷の花火大会が一番楽しかつたつて言つてた。私たちまで楽しませて頂いてね。母が認知症でありながらも、年を取つていく姿つていうのを、離れているから色々なことがあるんだつて学ばせてもらった。色々あつて当たり前なんだと、受け止めるようになったんですよ。やっぱりこちらにお世話になつてなかつたら95歳までは生きてなかつたと思うし、いろんな人にお世話になりながら生をまつとうできたつていうのがすごく幸せなことで、本当の天寿をまつとうできました。



インタビューを終えて

まずは今回のインタビューを快く引き受けていただいた和子様、知子様に感謝申し上げます。やすらぎの郷での15年間が、娘様及び正江様にとつてもやすらぎだったとお話をいただくことができたことが、何よりも私達職員の励みになります。ありがとうございました。

私事ですが、私の入社時期と正江様の入所の時期がほぼ一緒で、とても感慨深いインタビューとなりました。貴重なお話をありがとうございました。

『西棟介護職員 飯塚和義』

第11回 やすらぎの郷秋祭り



やすらぎの郷第11回目となる秋祭りを開催しました。今年はデイサービス、特養・ケアハウスの部、分かれての開催でした。笑顔いっぱいの秋祭りとなりましたので、その様子をお届けいたします。

まずはデイサービス

デイサービス職員によるビンゴ大会とたくさんのお店がだされました。また、事務所職員によるマツケンサンバも披露され皆さま一緒に「オレイッ！」と楽しまれていました。



続いて特養・ケアハウスの部

西棟からは、なんと北島三郎さんが登場…!サブちゃんが「祭り」を披露してくれました。

東棟は、炭坑節。懐かしい音楽に合わせて一緒に踊り、懐かしかった~との声が上がりました。

医務課職員からは、綿菓子振る舞われました。皆さん出し物を見ながら、美味しそうに召し上がられました。



最後は、ケアハウス職員による歌の披露

盛り上がる曲から懐かしの曲まで、ケアハウス入居者である川島さんが奏でるハーモニカと相談員のギターの息の合った演奏はお見事でした。

そして今回の秋祭りをさらに盛り上げてくれたのは、けんけつちゃん。可愛いね~と皆さまから大人気でした。けんけつちゃんありがとう!



デイサービス



Day Service

2023年やすらぎの郷 デイサービスの思い出

昨年から少しずつではありますが、毎月のレクリエーションを開催してきました。たくさんの笑い声と賑わいが戻ってきて職員一同嬉しい限りです。そんな1年を振り返りました。

春



【桜】

デイサービスの前には桜が一面咲きます。昼食時に外に出て花見をしました。



春



【記念撮影】

撮影会をしました。つつじの花が満開時には外に出て気分転換！



夏

【スイカ割り】



職員お手製のスイカ割りです。夏の気分を味わっていただきました。その日のおやつには本物のスイカを食べてもらい、大変喜ばれました。



夏

【運動会】



利用者様、職員一丸となり接戦を繰り広げました。

夏

【七夕】



短冊に願いを書いていただき、笹に結びました。玄関に飾り、皆さん笹の近くを通るたび眺められていました。

冬

【親睦会】



サンタの格好やツリーに扮してメリークリスマス！

鬼がきました。新聞紙を丸め鬼退治！

【豆まき】



秋

【体験】



イオンモールに日本赤十字の体験ができるブースが催されていました。

【秋祭り】



出し物や出店、ビンゴゲームをして楽しみました。

【お菓子作り】



皆で手分けしてパフェを作り美味しくいただきました。

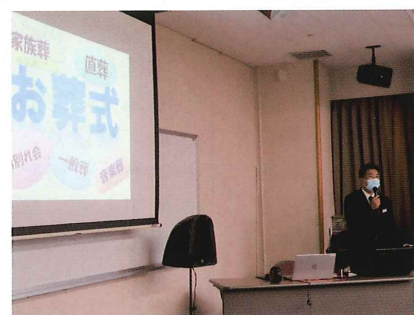


Regional and
More cross courses



地域ともつとクロス講座

「地域と老いを考える会」



令和5年10月4日(水)、第7回地域ともつとクロス講座「地域と老いを考える会」を開催しました。コロナウイルス感染症の流行もあり、実に3年ぶりの開催となりました。

今回の大きなテーマは「老後に関するお金の話」とし、税理士法人トライウィンの税理士 市丸雄二郎先生による相続税等に関する講座、あおやぎ葬祭営業企画部の宮田課長による「お葬式の流れ」、やすらぎの郷の廣田介護課長による「介護等にかかる費用について」と盛りだくさんの講座となりました。当日は地域住民や医療介護関係者など28名の出席をいただき活気ある講座とありました。終了後は「気になっていることが聞いて参考になった」、「家族信託のあたりは聞きたかった内容なので大変参考になった」などの声がありました。

やすらぎの郷では、今後も地域の方々と一緒に「老いを考える会」を開催いたします。町の広報誌でも案内をいたしますので皆様のご参加をお待ちしております。



日本赤十字社福岡県支部
特別養護老人ホーム



〒811-2208 福岡県粕屋郡志免町大字吉原600番 TEL.092-936-2022 FAX.092-936-2135
ホームページ <http://yasuraginosato.org/cgi-bin/index.cgi>

令和6年1月発行